

しおさい



イチイの巨木と尻屋八幡神社

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ⑨ ふるさと見聞録 ほろべ 袈部を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし:東通村連合婦人会……………4
- クローズアップ いやはぎ はるみ こんにち元気さん:伊柳 晴美さん……………4
- ファイト!わんぱく:東通小学校吹奏楽部……………5
- 地元の特派員レポート: あいない みゆう よつや たかお 相内 美佑さん/四ツ谷隆雄さん……………6

vol.21
令和元年度発行

郷土芸能は、三拍子の「獅子舞」

ほろべ

奥部を訪ねて

おおらかで協力心のある、あったかい地域!

下北半島の東北端にそびえる桑畑山と片崎山。その切れ目を南北に流れる奥部川沿いの、山間部にある集落が奥部地区です。

今から200年程前の江戸時代後期に、川上家と中村家の先祖が日光から移り住んだと伝えられ、かつては岩屋地区の枝村でした。

奥部の名はアイヌ語で長い川を意味し、奥部川の水はきれいで、上流にはイワナが棲んでいます。



集落名に由来する奥部川の源流

昔は漁業が盛んで、岩屋漁業協同組合と合併するまでは、奥部に田畑漁業協同組合がありました。漁協がイカ釣り船を購入してイカ漁に出かけ、浜には納屋が並び、イカ干場となっていました。漁に行く途中は「稲荷様」の前を通り、大漁と安全を祈願したそうです。他にも昆布採り、イワシの地引網漁、コウナゴ漁が行われ、2月はニシン漁にも出かけていました。



奥部川上流の水源地

昭和30年代に砂鉄ブームが起こると、奥部には多くの鉱業所が建設されました。奥部の硬い岩盤は珊瑚など



漁に出る時必ずお参りする稲荷様

よる石灰岩で形成されていることから、石灰岩の鉱業所が建設されたり、セメントの粘土採掘も行われ、そこで働く社員の住宅や寮が地区内に建設されました。奥部地区

でも鉱業関連の会社で働く人たちが増え、住民の生活は次第に潤っていきました。

集落の活動としては、現在、地区会で地域の清掃、納税、奥部八幡神社のお祭りを行っています。春は4月15日、秋は9月14日に大祭が行われます。

青年会は、15歳から42歳までの4人で頑張っています。春と秋の大祭や年越しには、熊野権現の獅子舞を披露し、平成17年までは独自で発表会も行っていました。

消防団は、第17分団として地域の人の生命と財産を守る活動をし、婆会は、定期的に集まり、念仏を唱えたり、墓地の草取りをしています。

奥部の郷土芸能は「獅子舞」です。平成3年、青森県無形民俗文化財に指定された東通村の「獅子舞」は、村内では奥部地区と入口地区だけに伝承されています。その特徴は、テンポの速い三拍子。「鞍馬」は、肩に乗るユニークな獅子舞。「大笠松山」は、まるで歌舞伎のよう。他にも「とり舞」「ねんず」など、迫力ある舞いが見る人を魅了します。平成17年からは人手不足のため「祈祷舞」だけが行われています。

ここには落人伝説もあります。「藤原義勝」という武士が、当時では貴重な鏡を持って、奥部の地に流れてきたと伝えられています。



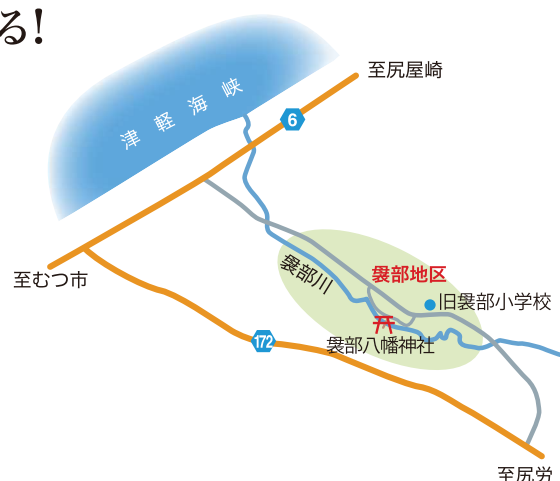
昭和63年当時の奥部青年会



権現舞



鞍馬





襦部地区

「襦部八幡神社」は 地域の守り神

集落の中央から襦部川を越え、一段高い場所にあるのが「襦部八幡神社」です。地元では「八幡様」「産土様」と呼ばれ、親しまれてきました。



杉の御神木がある襦部八幡神社 かなやま

文化年間（江戸時代後期）に祀られた神社で、御祭神は「金山比古命」ひこのみこと。御神体は、左手に弓、右手で手綱を持ち、矢を背負った武者の木像で、昭和54年にお色直しが行われました。また、今から3年前には奥の院の改築、昨年は屋根の張り替えも行われています。毎年、春と秋の大祭には獅子舞が奉納されます。

襦部八幡神社は、地域の人々の心の寄りどころとなっています。



かわかみ ゆうさだ
襦部地区 会長 川上 勇定さん(78歳)

澄みきった美しい川が流れる襦部地区は、世帯数23戸、人口48人の集落です。そのうち6世帯が女性のひとり暮らしで、人口減少と過疎化が進む地域です。それでも地域の八幡神社のお祭りや地区の清掃は、みんなで協力して取り組んでいます。特に納税は、毎月地区民が積み立て、13年連続完納を達成しています。三拍子の獅子舞は、襦部が誇る伝統行事。人口は減っても、どうにかして守り伝えなければならない宝物だと思っています。



昔は30人いた会員も今は5人です。それでも、地域で誰かが亡くなれば、涙を流して念仏を唱え、月に一度の墓地の草取りは、助け合いながら行っています。また毎月24日は、集会所で念仏を唱えます。その後は、持ち寄った御馳走で仲良く交流します。歌や踊りが自然と飛び出し、みんなで楽しく過ごしています。



婆会 会長
おおつ 津 なをさん(83歳)

若い頃は漁に出て、マスやイカを獲っていました。鋳業所の社員になつてからは、漁船の操作技術を生かし、船の接岸に必要な「綱取り船」の操縦を行っていました。青年会では獅子舞「鞍馬」の肩に人を乗せる弁慶役の師匠として多くの人に伝承してきました。若い人は年々減っていますが、次の世代にしっかりと伝えていきたいと思っています。



前 襦部地区会長
なかむら てつお 鐵男さん(85歳)



東通村の頑張るグループを紹介

「田植え餅つき踊り」を伝承!

〔東通村連合婦人会〕

東通村内の4地区にある婦人会。その婦人会をひとつにまとめ、伝統行事「田植え餅つき踊り」を伝承するなど、さまざまな活動を展開しているのが東通村連合婦人会です。会長の伊藤貢子さん、副会長の花部たち子さんをはじめ、現在会員は、目名婦人会、白糖婦人会、老部婦人会、小田野沢婦人会のメンバー合わせて50人。

県の無形民俗文化財に指定され、200年以上前から小正月に婦人たちが集落内を門付けして舞う「田植え餅つき踊り」を伝承するため、各集落の子どもたちに教えています。毎年11月には、東通村連合婦人会芸能発表会を開催しています。

今年の9月には、下北連合婦人会幹部研修会を村の体育館で行い、衣

類の品質表示など暮らしに役立つ知識を学びました。10月には青森市で地域連合婦人団体の全国大会が行われ、女性の働き方について意見を交換しました。このほか日赤奉仕団として、防災訓練での炊き出しなども行っています。

「今はほとんどの人が会社勤めをしているので、みんなで一緒に活動するのは容易なことではありません。でも私は婦人会活動を通して、たくさんのことを学び、連合会ではそれが更に交流へと発展しています。異業種の話の聞いたり、同じ『餅つき踊り』で



東通村連合婦人会芸能発表会 田植え餅つき踊り



下北連合婦人会幹部研修会



会長の伊藤貢子さん(左)と副会長の花部たち子さん(右)

も、手技や速さが違うなど、楽しい発見がたくさんあります」と伊藤会長。「今後は、各婦人会の定年制を無くして、より多くの会員のもと、新しいことにも挑戦してみたい」とも話してくれました。



元気さん いやなぎ はる み 伊柳 晴美さん(58歳)

今が最盛期のサケ漁。40年前から定置網でサケを獲り、17年前からは地域の先駆者としてサケの中間育成に取り組んできた、伊柳晴美さんにお話を伺いました。

東通村入口地区に、漁師の長男として生まれた伊柳さんは、八戸水産修練所を卒業後、カツオの遠洋漁業を経験。17歳からサケの定置網漁に取り組んでいます。

漁期は9月から1月まで。漁港から船で10分程のところに網を仕掛け、回遊してくるサケを獲ります。



定置網



網を引き上げる伊柳さん



漁港に着き水揚げ開始



獲れたてのサケ

海中飼育と呼ばれるサケの中間育成は、老部川内水面漁協から譲り受けた約2cmの稚魚に20日間エサを与えて、5cm程度に育ったら海へ放流。4年後、放流した70万尾の稚魚のうち、約7万尾が立派なサケとなって帰ってくるというものです。

「今年は海水温が高く水揚げが少なく大変ですが、ただサケが帰ってくるのを待つだけではない中間育成は、取り組んで本当に良かったと思います。定置網がサケでいっぱいになると網の中が真っ黒になり、とても面白いです」と、いきいきとした表情で話します。

このほか、野牛漁協の監事も務め、漁協が取り組む大型外地まきホタテ貝の養殖を行う一方、東通村消防団第一分団長としても活躍する伊柳さん。



元気の秘訣は「自分が作った網で魚を獲ったときの喜びと、その後の一杯」と笑みを浮かべます。また、後継者の次男と一緒に漁に出られるのは嬉しい限りとし、「今後は、次世代の漁師のためにも、気候に左右されない、育てる根付漁業にも取り組んでみたい」と夢を膨らませていました。



東通小学校吹奏楽部

「吹奏楽部に入ったら、今まで以上に音楽が好きになった。自己満足で終わらせず、誰が聴いても感動するような音色の表現を心がけています」と話す子どもたち。東通小学校吹奏楽部は、学年の枠を超えたアットホームな雰囲気の中、楽しく真面目に練習を重ねています。

放課後の音楽室では、4年生から6年生まで21人の児童が、週4日、約1時間半みっちり練習。八谷智顧問をはじめ、高松留美子先生、西山絵夢先生が、優しく厳しく指導にあたっています。

練習は、肺活量を鍛えるためのジョギングから始まります。チューニングをしたら、ロングトーンや半音階などの基礎練習。最後に、合



吹奏楽部のみなさん

奏やパートごとの練習で終わります。発表会が近づくとお昼休みも自主的に練習に励みます。

主な発表の場は、10月の学芸会、8月のひがしどおり来さまいフェスタ、トントウのサマーコンサート&サマーフェスタ。美しいメロディを奏で、地域の人たちを喜ばせています。

コンクールにも参加し、昨年の青森県アンサンブルコンテスト下北地区大会では、フルート、クラリネット、ホルンなどで編成された「管打五重奏」が銀賞、アルトサクソフ、チューバなどの「管楽四重奏」は銅賞を受賞しました。

部長で6年生の南川美優さんは「吹奏楽を始めて、ただ曲を聴き流

すのではなく、クラリネットの柔らかい音色や、楽器のパートも聴き分けられるようになりました。もっと上手くなってコンテストで金賞を取るのが目標です。また、こども園や福祉施設でも演奏してみたいです。中学生になっても、ずっと続けていきます」と笑顔で語ってくれました。

高松先生は「音を出すことで個々の集中力は高まり、みんなと一緒に演奏することは規律面にも良い影響を与えます。音楽は、心に豊かさをもたらす素敵な芸術。小学生から始めた吹奏楽を今後も継続し、更なるレベルアップを願っています」と話していました。



部長
みなみかわみゆう
南川 美優さん
(6年)



指揮者を真剣に見ながら



学芸会に向けて猛練習



トントウビレッジでのサマーコンサート



ひがしどおり来さまいフェスタ2019での発表



学芸会ではアラジンメドレーなどを発表



本番さながらの演奏



東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは10月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。



自然がいっぱい老部

東通村老部在住 あいまい みゆう
東通小学校(6年) 相内 美佑さん(12歳)

私が住んでいる老部には自然がたくさんあります。近くの山では、きのこや栗、山菜など季節によってたくさんの種類の山の幸がとれます。

その中でも私は舞茸が大好きです。毎年おじいちゃんが



海へ栄養を与えている老部川



近くの山の栗

顔より大きな舞茸

とってきてくれる舞茸は、私の顔よりも大きくて歯ごたえも良くとてもおいしいです。

家から5分ぐらい歩くと海もあります。友達と一緒に遊びに行ったり、きれいな風景を写真に撮ったりしています。海岸には貝殻がたくさんあります。東京の友達に貝殻をデコレーションしてプレゼントしたらとても喜んでくれてうれしかったです。

老部は、山も海もある自然豊かなところ。すてきな風景がたくさんあるので、みなさんもぜひカメラを持って遊びに来てください。



きれいな海



海岸の貝殻



「目名」神楽伝承の地

東通村目名在住 よつや たかお
四ツ谷隆雄さん(67歳)

東通村の西に位置する山あい集落があります。中心部の交差点には「追分」と書かれた石碑が立ち、昔から砂子又方面と尻屋方面の分かれ道となっていました。目名は三光院と言われている「東通村の能舞発祥の地」があります。その隣にはかつて「郷社目名神社」と言われた社があり、獅子頭が安置されています。平成30年に新しい獅子頭が披露され

ました。目名は昔から神楽の師匠どころと言われ下北各地に伝承されています。元旦には集落の毎戸を門打ちします。また、婦人会でも小正月には、餅つき踊りや手踊りなどを舞いながら各家を回ります。9月の例祭には集会施設「布名見の里」で神楽会の獅子舞いや、婦人会、老人クラブなどの皆さんが踊りやカラオケを歌ってにぎやかに過ごします。目名は、東通村の半分以上の米を生産する米どころでもあります。秋には「新そば街道まつり」が「布名見の里」で行われ多くの方々を訪れます。



追分石碑



目名神社



平獅子



田植え餅つき踊り



新そば街道まつり



実りの秋

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

編集後記

広報誌「しおさい」第21号はいかがでしたでしょうか。
今回の「ふるさと見聞録」では、震部地区の皆さまに思い出話も交えながら取材させていただき、時折笑い声が飛び交う和やかな雰囲気の中、楽しくお話をうかがうことができました。
また、貴重な書物や写真などを多数ご用意いただき、地区の歴史を丁寧に話してくださる様子から、伝統を大切に後世に伝えていこうという熱い思いや、住民どうしの強い一体感が感じられました。
私自身、今年の7月に赴任してきたばかりなので、これから東通村の皆さまと触れ合っていく中で、たくさんの村の魅力を発見していきたいです。
今後も、東通村の皆さまに親しまれる広報誌の作成に努めてまいりますので、引き続きのご愛読をよろしくお願いいたします。